

SPARC Japan の活動の再定義のたたき台(委員長私案)

2021/2/26

武田英明

SPARC Japan のミッションは「健全な学術情報流通」の実現を目指し、学術情報流通に関わる多様なステークホルダーを媒介し、対話を促すことである。

健全な学術情報流通とは、機会においてもコスト負担においても公平でかつオープンにアクセスできる学術情報の流通形態のことである。

SPARC Japan の今日のミッションは具体的には「オープンサイエンス化に伴う新しい学術情報流通への対応」である。学術情報流通は時代により変遷しており、それに伴い健全な学術情報流通の実現のための課題も変化している。これまでは商業出版と学術活動のバランスという課題やオープンアクセス化に伴う対応などが課題であった。2020年代においてはオープンサイエンス化にともなう新しい学術情報流通への対応が課題である。オープンサイエンスにおいては研究成果のみならず、研究プロセスもオープンになることが求められる。このオープン化を支える学術情報流通が必要とされている。

SPARC Japan は、この実現に向けて研究者と学術機関を中心としてさまざまな学術情報流通のステークホルダーが対話・議論する場を提供する。オープンサイエンスにおいては、研究者および学術機関を中心に据えて議論を進めていくことが重要である。既存の学術情報流通にない、オープンサイエンス下における新たな学術情報流通へのニーズは、その源泉である研究活動の現場から生まれてくる。そのニーズを知るためには研究者や研究者を支える学術機関の議論への参画が望ましい。またその成果である新たな学術情報流通は研究者や学術機関に資するものでないといけない。

その実現に当たってはさまざまなトピックスがあり、それらを SPARC Japan として随時検討していく。その例といくつかを以下にあげる：

- 図書館を中心とする学術情報流通から大学一体となった学術情報流通への変革
- オープンサイエンス環境における大学等における研究教育の支援のあり方
- 学術情報流通の新たな費用分担のあり方(例：transformative agreement)

○今後の進め方

1. SPARC Japan の位置付けに関するご意見、議論(今回の文章に対するフィードバック)
2. 個別課題の同定
3. それぞれの個別課題における各ステークホルダーの関与の明確化
 - (1) ポジションペーパー内に挙げられた課題を解決するための具体的な方策
 - (2) ステークホルダーにどのような役割、今後の活動を期待するのか